

令和5年度 第9回さぬき市地域未来づくり会議 会議要旨

開催日時	令和6年1月30日（火）午後7時～午後9時
場 所	さぬき市役所附属棟 多目的室
出席者	[委員・コーディネーター] 計5名 折原委員、砂川委員（WEB）、長町委員、池田委員、黒川コーディネーター
	[事務局] 計3名 プロジェクト推進室：大山室長、原田室長補佐、谷本主任主事
欠席者	なし
傍聴者	5名
次第	1 開会 2 官民連携による提案制度の検討について 3 その他 4 閉会
配布資料	次第 資料 連携協定締結団体一覧
発言者	意見概要
座長	ちょっと間も空いたが、官民連携の形を模索する中で、〇〇市の取組を参考にしながら良い部分を取り入れていけないかというところが、前回の話だったかなと思う。その中で、先々週、実際にプロジェクト推進室と共に〇〇市の提案制度の担当の方に1時間くらい話を聞く機会をいただいた。実際に応募がどのくらいあったのか、どういった応募があったのか、他にも官民連携の取り組みがある中で何故提案制度を行っているのか、といったことを聞いてきた。また、〇〇市とさぬき市とでは人口規模も違えば、連携してくる企業も違うだろうというところで、改めてさぬき市でやる場合はどのような企業や個人になるのかといったことも含め、どちらかと言えば、方向の整理と今後の方針を決めていきたいと考えている。最初に〇〇市との話を共有したいのでお願いしたい。
事務局	（〇〇市の聞き取り内容の報告、資料の説明）
座長	シンプルにまとめると、〇〇市の場合は基本的には大手企業から提案があるそうで、実際にやられているケースとしては、企業が公用車を寄贈し、公用として使用していない間はカーシェアをして、得たデータを企業はいただくという実証実験の協定であり、経費を減らす取組であるが、民間提案制度ではなく連携協定の範囲内で行っていた。このように連携先は探さなくても、提案があるという現状であったため、〇〇市としては、連携協定に力を入れようという方針だ。何より民間提案制度と比べると連携協定の方が早く、随意契約の問題もないうえ、予算も必要ないということで直ぐに取り組めることが大きい。ただ、さぬき市の場合も提案制度ではなく連携協定の方が良いのかと言われると話が変わってくると思う。さぬき市とし

	<p>ては、まずは民間との取組を積極的にやっていることや窓口があるということを示さないといけないと思う。もう一つは、担当の方が言われた中に「応募があっても小ぶりなものが多かった」と言う表現をされていたが、例えばAEDに広告を付ける取組は小ぶりらしく、大きな企業と連携するための官民連携の体制を整えていることが〇〇市の視察のまとめだ。さぬき市の場合は、想定する連携相手を大手企業にするのか、地元の企業なのか、市民団体なのかといったことによって変わると思う。さぬき市の連携協定の一覧を見てみると、大手企業が多く、そこを想定するのであれば連携協定になるのかもしれない。そうではなく、例えば、イベントする時の使用許可レベルのものであれば提案制度が良い。提案制度を〇〇市ベースで作ると採択までに時間がかかり過ぎ、機能しなくなると思うので、制度自体を簡易化していく方法が論点になってくると思う。最初に決めないといけないことは、官民連携をしていく場合の民間の範囲だと思う。</p>
委員	<p>〇〇市の連携協定の話は民間提案制度ができる前からあったのか、それとも制度ができたから作ったのか。</p>
座長	<p>連携協定自体は元々があって、個別の課題を解決してもらえようような提案を募集したいという市ベースでの発信が提案制度を作ったきっかけだと思う。</p>
事務局	<p>〇〇市は民間との連携協定を常に募集している状態で、対象とする企業や市の費用負担は原則無償であることを明示している。</p>
委員	<p>〇〇市と同じモデルでは無理だと思う。</p>
座長	<p>〇〇市よりも人口規模が小さい〇〇市も民間提案制度を継続して取り組んでいるので一度話を聞いてみても良いと思う。そもそも、どの程度の民間企業を想定するのかということも考えないといけないと思う。埼玉県横瀬町が行っている「よこらぼ」は、大手企業向けではなくベンチャー企業や横瀬町が好きで何かをしたい若者を対象にしている印象がある。さぬき市のイメージで言えば「よこらぼ」寄りと考えていくことが一つのやり方としてはあるのではないかな。</p>
委員	<p>大手企業が〇〇市に色々な話を持ち掛けるのは、企業価値を高める上で目立っている自治体と連携したいと思うからであり、そのニーズは〇〇市が吸収しているので、さぬき市は同じ土俵に上がらなくて良いと思う。</p>
委員	<p>〇〇市のレベルだと話が大きすぎるのでスケールを小さくしていこうかなという話だと思うが、とりあえず仮想で回せるモデルがあると話が進みやすいと思う。</p>
座長	<p>案件を設けてその解決を募集する際に、どんな企業や任意団体が応募してくるかを</p>

	<p>考えるということは一つの考え方としてあると思う。案件の幅も色々あり、例えば浜辺や廃校の運動場の使用許可とかといったレベルのものもあると思う。</p>
委員	<p>〇〇市のモデルはちょっとかしこまり過ぎていて、地場の企業からはスルーされてしまうと思うので、もう少し間口を広げるような形で気軽に企業が興味を持てる形にできたら良いと思う。</p>
委員	<p>〇〇市は全国的な企業があつたりするが、さぬき市の場合はそのような企業を引っ張ってくる力がどこまであるのかという現実的な問題がある。さぬき市としては大企業と個人商店の間くらいを想定することが良いと思う。</p>
座長	<p>条件としては、個人事業主もありにするか、法人格を有しているか、従業員が何名以上か、とかといったことなると思う。このラインを決めるにあたっては、案件のサイズ感から考えてみることも個人的には良いと思うので、そこを軸で考えていきたい。</p>
委員	<p>前回の会議の後に作成した「さぬき市民間提案制度実施要項」の中に3テーマを入れていたが、そこをベースにしてはどうか。「公有財産の利活用」と「移住体験ハウスの改善」と「情報発信の強化」はさぬき市の課題の部分ではあると思う。</p>
座長	<p>その中だと「公有財産の利活用」が一番お金もかかると思うし、一番ライトなところでいうと「移住体験ハウスの改善」だと思う。その場合は宿泊事業者やシェアハウスを運営されている方といった住居に関わる人からというイメージだ。不動産事業者の内、個人と法人でされている方の差は何か。</p>
委員	<p>規模にもよると思うが、法人格を有している方が安心感はあると思う。個人の場合は同じような考えの人が集まり、チームを組んでということになると思うが、途中で財政的な問題や人的な問題で頓挫してしまう可能性が高いと思う。</p>
委員	<p>短期的だと個人は良くて、長期的だと法人格を有している方が良いというイメージがある。</p>
事務局	<p>それは、例えば、単年度の取組か年度を超えた取組かというところで括る方が分かりやすいと思うので、そこを一つの起点にすることはあると思う。例えば、許認可の場合や移住体験ハウスでのツアー企画みたいなものと単年度になると思う。ただ、時間だけで区切ると結構難しく、規模の話になると難易度が上がってくると思う。そうすると法人格を有していることで区切っても良いという気がする。試験的にまずやってみるところの最初のターゲットとしては法人格を有していることとするにはあると思う。</p>

事務局	最初は法人格を有していた方が良いという話だが、事業の実現の可能性というのが審査項目に入ると思うので、個人よりは法人の方が間違いないと思う。
座長	個人の場合は審査段階ではじかれてしまうので、早めに明確にしておいた方が良いと思う。市民の活動に関しては、政策課で行っている地域活性化助成事業といった別の制度があるので、そこで対応できない企業との連携をフォーカスしていくということはあると思う。あと、こちらからのお題を出したものにだけ提案できるよにするのか、それとも、例えばさぬき市に財政負担がないことやさぬき市の活性化に寄与することといった条件を一定示した上で、自由に応募できるようなオープンな制度にするかといったことが次の問題としてある。テーマを縛ってしまうと、〇〇市の規模で7件なので、人口比だけで見るとさぬき市では1件か2件しか年間を通して提案が来ないことになってしまうと思う。フリーな部分も一定設けないと制度を整えたけれども応募が1件だけとなると、そもそもの趣旨である民間の力を取り入れていくということに反すると思う。「よこらぼ」の場合はテーマを決めてないので早い。提案がこの町にとって良いのか悪いのか、実現可能なのか可能じゃないのか、といった2点だけで決めていることがスピード感に繋がっていると思う。さぬき市の場合は、両方やるのか、それともこの会議で扱った「移住」、「空き家」「情報発信」に関する分野で募集を受け付けるパターンもあると思う。この方針が決まれば形が大分決まってくると思う。
委員	そういう形ですずっと議論してきたし、個人を含めてするのであれば、フリーテーマで募集することが多分合っていると思うが、法人格を有することを条件とするならば、自由度が高いと相性が悪いと思う。
委員	今までの会議を振り返っていて、9月に「よこらぼ」の話をした時にも3つのテーマに絞って話し合っていたと思う。ただその時は「よこらぼ」はさぬき市と比べて規模が大きすぎるという話もしていたかと思うが、今日に至るまでに何故その議論がなくなったのかが思い出せない。
座長	〇〇市を参考にしようとして、具体的な話に切り替わったと思う。
委員	さぬき市としてはこういう課題を解決したいという話の流れになって、しっかり決まったものを参考にしようという話になったと思う。
座長	何が来るか分からないというよりは、さぬき市が本当に困っていることに対して提案をいただいた方が良いのではないかとということと、最初募集する場合は具体的なものでないとよく分からないのではないかとということであったと思う。「よこらぼ」が何故うまくいっているかと言うと、全プロジェクトが公開されているからだ

	<p>と思う。〇〇市の連携協定も同じように官民連携のプラットフォームで全て見えるようになっている。見える化でモデルケースがあると応募しやすくなることは実際にあると思う。モデルケースになるようなモデル事業をまずは募集してみて、その例を元に、例えば「今年度はこういうテーマで募集します」ということであれば応募しやすいのではないかと。政策課で行っている地域活性化助成金を過去に申請したことがあるが、「自分が申し込んでいいのだろうか」とか、「どういったことに使えるのだろうか」ということを過去の採択事例を見て参考にすることがあったので、そういう過去の事例は分野で絞る場合だと必要になってくるのではないかと。思う。</p>
委員	<p>最初は全く反応がなく応募がゼロであることは避けるべきだと思う。少し定量的に考えると、さぬき市に応募してきそうな企業は何社くらいありそうなのかが見えてこない。</p>
委員	<p>プロジェクト推進室で把握している感じではどれくらいありそうなのか。</p>
事務局	<p>具体的には分からないが、市内企業は難しいと思われる。</p>
座長	<p>今回は法人に絞る代わりに市内企業である必要はない気がしていて、連携協定の中では災害時の内容が非常に多いが、例えば、市内企業とだけ連携していると、災害時に支援を受けられないと思う。グラウンドのナイター設備の整備を企業が行い、さぬき市に寄付するという話もあるが、まさにそれなんかはさぬき市がお金出さずに設備をより良いものができる一つの例だと思う。さぬき市が今行っている取組等をまとめて、民間企業との連携の例であるということが言えれば良いと思う。ネーミングライツなどもそうだ。そういった事例を入れると、具体例というところに繋がっていくと思う。</p>
委員	<p>具体例として出してはダメなものはあるのか。</p>
事務局	<p>今進行中の話は出せないが、連携協定の締結が終わった話はオープンにできる。</p>
座長	<p>そういうのをまとめるだけでも企業側からするとこういうやり方があるのかということが分かる。極端な話だが、応募条件と問い合わせのフォームと過去の連携事例がまとまっている1つのサイトがあるだけでも良いと思う。</p>
委員	<p>そのぐらいライトな方が良い気がする。さぬき市外の企業からも受け付けるとしても、さぬき市にすごく興味があって、その情報をキャッチアップしてくれる企業が果たしてどれくらいいるのだろうかと思う。</p>
座長	<p>さぬき市だからというよりは、例えば人口5万人ぐらいの市町村で民間との連携に</p>

	前向きなところを探しているというスタンスは、企業との話ではありそうだと思う。民間との連携にオープンなだけでも企業からすると話を持っていきやすい部分はあると思う。
事務局	例えば、プロジェクト推進室で行っているスマホ相談会も民間企業と連携して無償でもらっている
座長	今の話は民間側の視点だが、逆にさぬき市側の視点で提案して欲しい案件があるかどうか。一旦そういった形で公開してみて、どのくらい反響があるかを見てみることも一つ考えられる。
事務局	「移住」、「空き家」、「情報発信」の3つの分野でモデル事業的にやってみて様子を見たうえで制度をブラッシュアップしていく方が良いと思う。
座長	1回やってみて反響を見ないと正直分からないというところがあるのかなと思うので、反響を見つつやっていくことは一つのやり方だと思う。この方向性で今後の会議を進めるとなった場合に、さぬき市が財政負担なくまちづくりや地域の活性化に寄与した事例を探すことのほか、こうしたサイトをさぬき市のホームページの中に作るのか、あるいは、かつて政策課で行っていた源内の改革プロジェクトのように独立してプロジェクト単体でサイトを新しく作るのかを考えていかなければならない。
事務局	最初は市のホームページの中に埋め込むことで良いのではないかな。
座長	写真だけあれば1時間あればサイトは作れると思う。こういった形で問い合わせ先だけプロジェクト推進室のメールに届くようにしておけば良いと思う。広告が付くことが問題であればノーションという別の方法で情報をまとめることは出来る。
事務局	この会議で作成したとしても市のサイトになるので、通常のホームページの広告掲載の場合との調整が必要だと思う。
座長	ノーションやノートであれば作れると思う。例えば今回の取組に名称を決めて、さぬき市のホームページにリンクを貼ることは一つの方法としてあると思う。
委員	鹿児島県の東串良町のように市区町村の公式ノートのアカウントはある。
委員	認証マークを付けることが出来るのであれば、市のモノということで信用感がある。

座長	この場合はどちらかというに移住の施策としてまとめている。
委員	東串良未来会議というものもある。
座長	さぬき市の場合だとホームページに議事録を添付しているが、その代わりにこういったところに載せて、見やすくしているというような感じではある。ノーションよりはノートの方が他の自治体が使っているケースは多い。実際、どういう手段でやるかはさぬき市の判断になる。
事務局	連携協定の中で実際にしているモノを掲載するイメージか。
座長	連携協定を結んでいないものもあると思うので、企業が持ち出しでやると言ってくれたような事例が次回会議までに集めていただけるとありがたい。もう一つは、それをどういった形で掲載するのかという部分での、さぬき市として出来る方法を調べていただけると、次回で大分スッキリ進む気がする。一旦認識として揃えたいことは、あくまでもさぬき市としては大きい企業だけではなく、最低ラインとしてきちんと継続ができ、責任を持ってやってくれるという意味で法人格を有していることとし、市内に本拠地がある、ないは問わないこととする。募集に関しては、具体的過ぎるものではなくて、「移住」、「空き屋」、「情報発信」といった分野を設定する。そして、予算は付けず財政負担がなければやるということにして、審査をスムーズにする。さらに、事例を紹介し、応募条件を明示したうえで問い合わせや申し込みフォームがある簡易サイトを一旦作り、反響に合わせて基準を調整する。以上が今日決めた今後の方針としたい。次回は実際に見えるような形にするにあたって、さぬき市としてやりやすい形はどういったものなのかということを検討いただきたい。
事務局	〇〇市のヒアリングはどうするか。
座長	〇〇市と〇〇市は、同じアドバイザーの元に作った制度なので、少し別の方が設計された制度の方が良いと思う。もう少し近くで似たような取組があれば良いと思うので、注目してグループで共有いただきたい。 以上で本日の会議は終わりたいと思う。 お疲れ様でした。
	～閉会～